

435. 低圧屋外・屋側配線の施設

〈工事方法の種類とその適用〉 ○印: 当該工事の施設できる場所を示す

	300V以下			300V超過		
	展開した場所	点検できる隠ぺい場所	点検できない隠ぺい場所	展開した場所	点検できる隠ぺい場所	点検できない隠ぺい場所
がいし引き工事	○	○		○		
合成樹脂管工事	○	○	○	○	○	○
金属管工事	○	○	○	○	○	○
金属可とう電線管工事	○	○	○	○	○	○
バスタクト工事	○	○		○	○	
ケーブル工事	○	○	○	○	○	○

〈各種工事の施設方法〉: 工事の施設方法は原則として、#429～#434の低圧屋内配線の施設方法を準用するが、その他に、次のように施設しなければならない

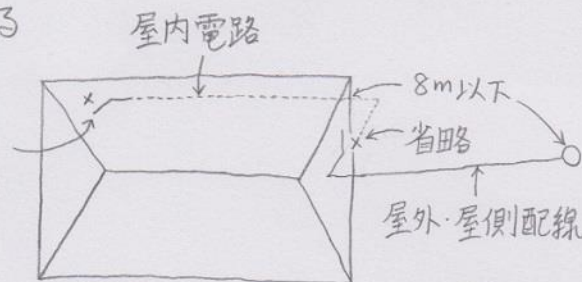
① バスタクト工事のダクトは、屋外用のバスタクトを使用し、内部に内が浸入して溜らないようなものでなければならない。使用電圧が300Vを超える場合は、木造以外の造営物に人が容易に触れないように施設しなければならない

② ケーブル工事の電線は、ケーブル、三種キャブタイヤケーブル、クロロプレンキャブタイヤケーブル(三種、四種)、クロロスルホン化ポリエチレンキャブタイヤケーブル(三種、四種)でなければならない。ただし、使用電圧が300V以下で展開した場所、または点検できる隠ぺい場所に施設する場合は、二種キャブタイヤケーブル、二種クロロプレンキャブタイヤケーブル、二種クロロスルホン化ポリエチレンキャブタイヤケーブルまたはビニルキャブタイヤケーブルを使用することができる

〈開閉器および過電流遮断器の施設〉

・低圧屋外配線または屋側配線の開閉器および過電流遮断器は、屋内電路用の物と兼用しない事。ただし、当該配線の長さか屋内電路の分岐点から8m以下の場合で、屋内電路用の過電流遮断器の定格電流が15A(配線用遮断器は20A)以下の時は兼用することができる

定格15A(配線用遮断器20A)以下の過電流遮断器



低圧屋内配線の工事方法は12種類も有る、だから



合成樹脂管工事、金属管工事、金属可とう電線管工事、ケーブル工事はやはり、全ての場所に適用できる

上表参照

低圧屋外・屋側配線の工事方法は、その内の6種に限られるのね

